令和7年度
学校報告会

川崎市立南野川小学校

校長　西村　勇一郎

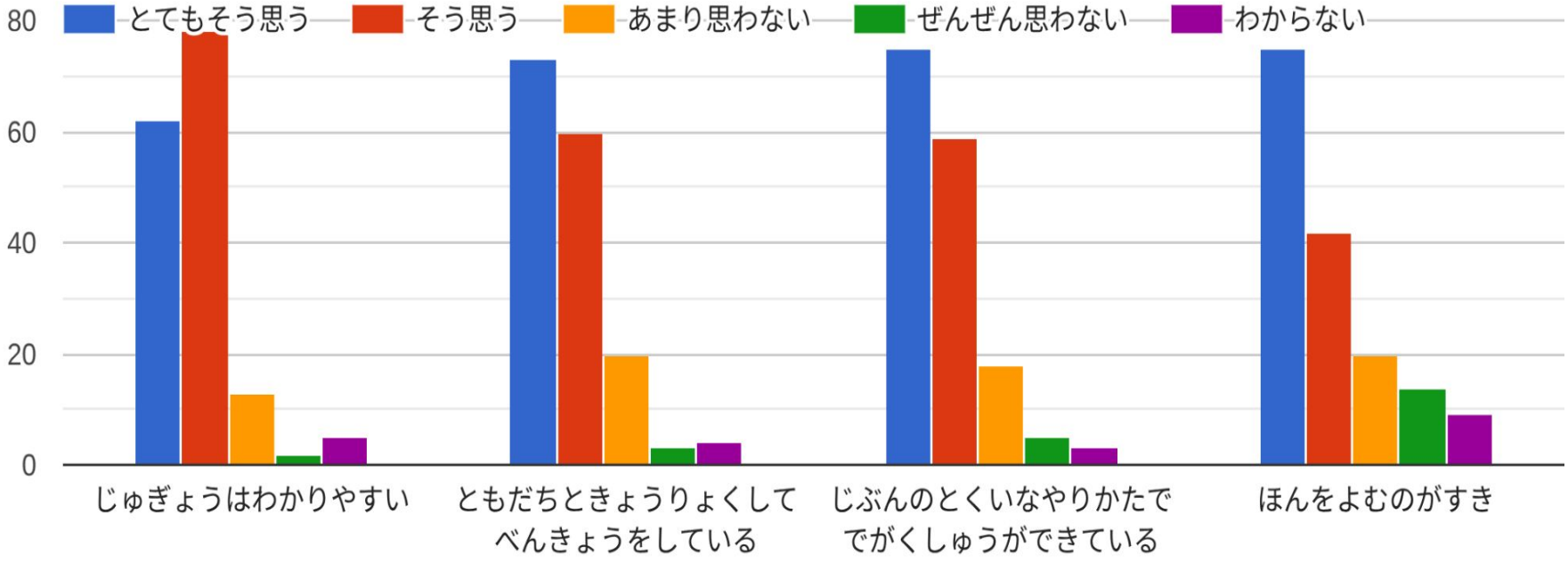
令和7年度
川崎市立南野川小学校
学校評価アンケート結果

ー集計グラフおよび考察ー

1．確かな学力の育成

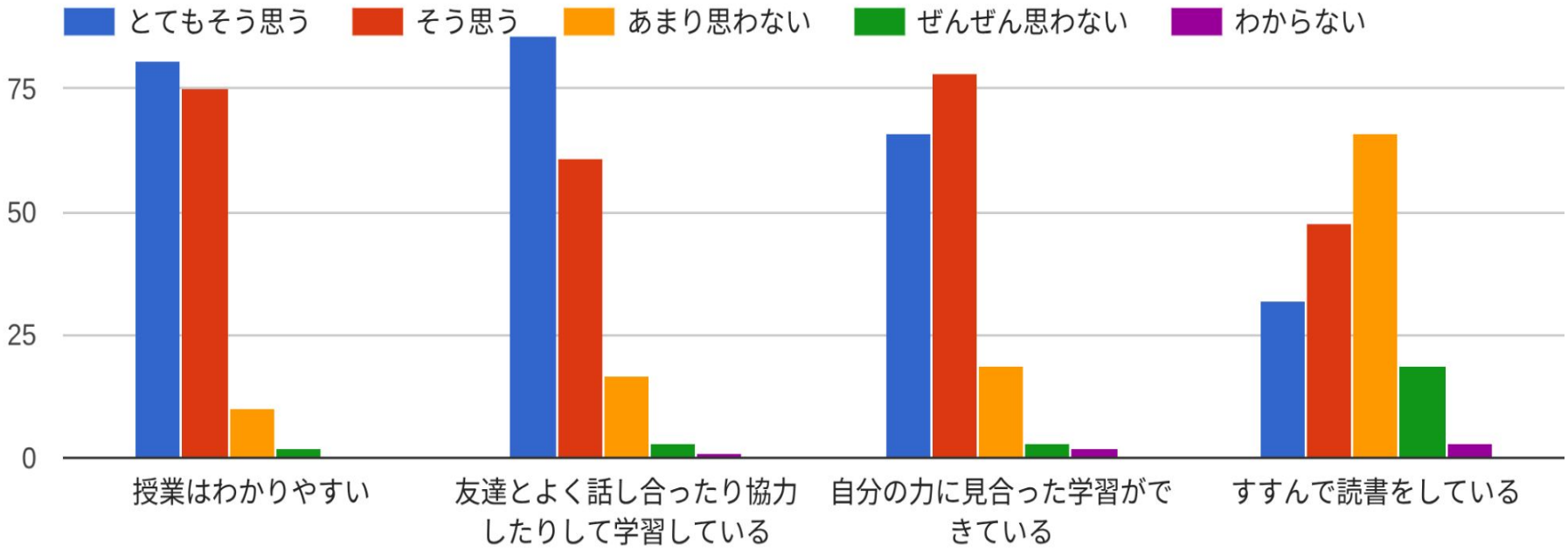
低学年

1　べんきょうについて



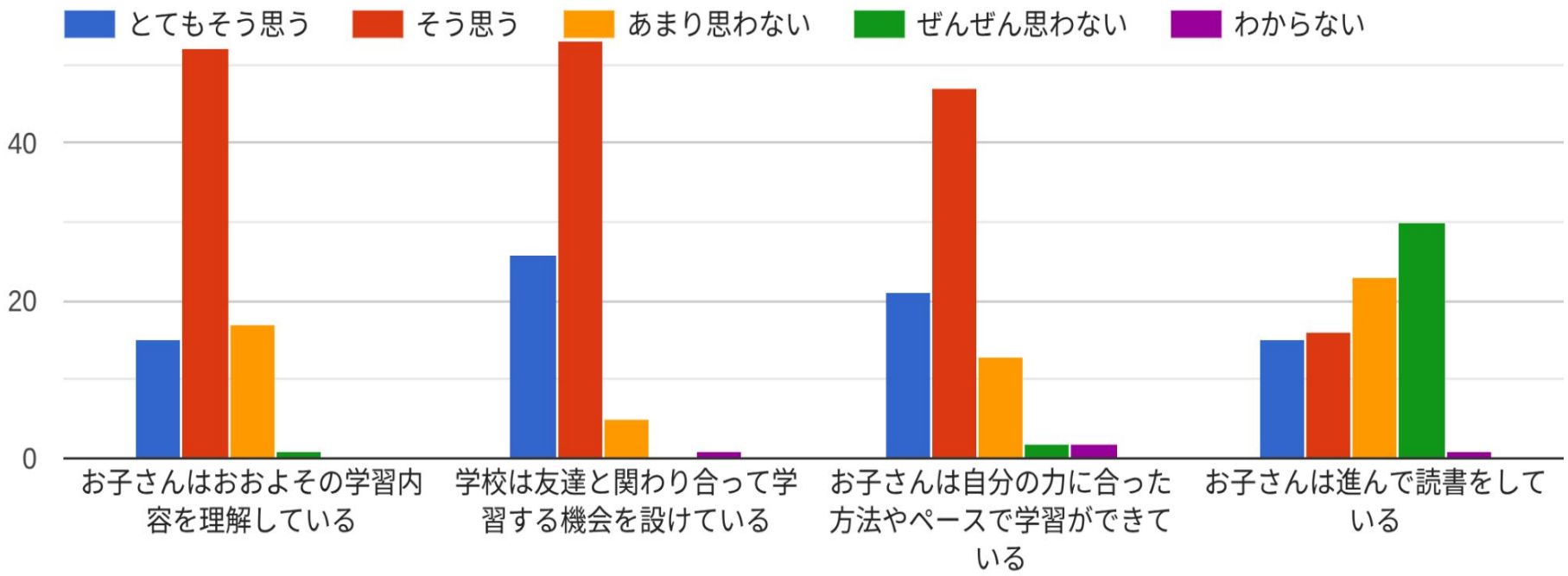
1　勉強について

高学年


とてもそう思う
そう思う
あまり思わない
ぜんぜん思わない
わからない
75
50
25
0
授業はわかりやすい
友達とよく話し合ったり協力したりして学習している
自分の力に見合った学習ができている
すすんで読書をしている

保護者

1　確かな学力の育成



１．確かな学力の育成についての考察

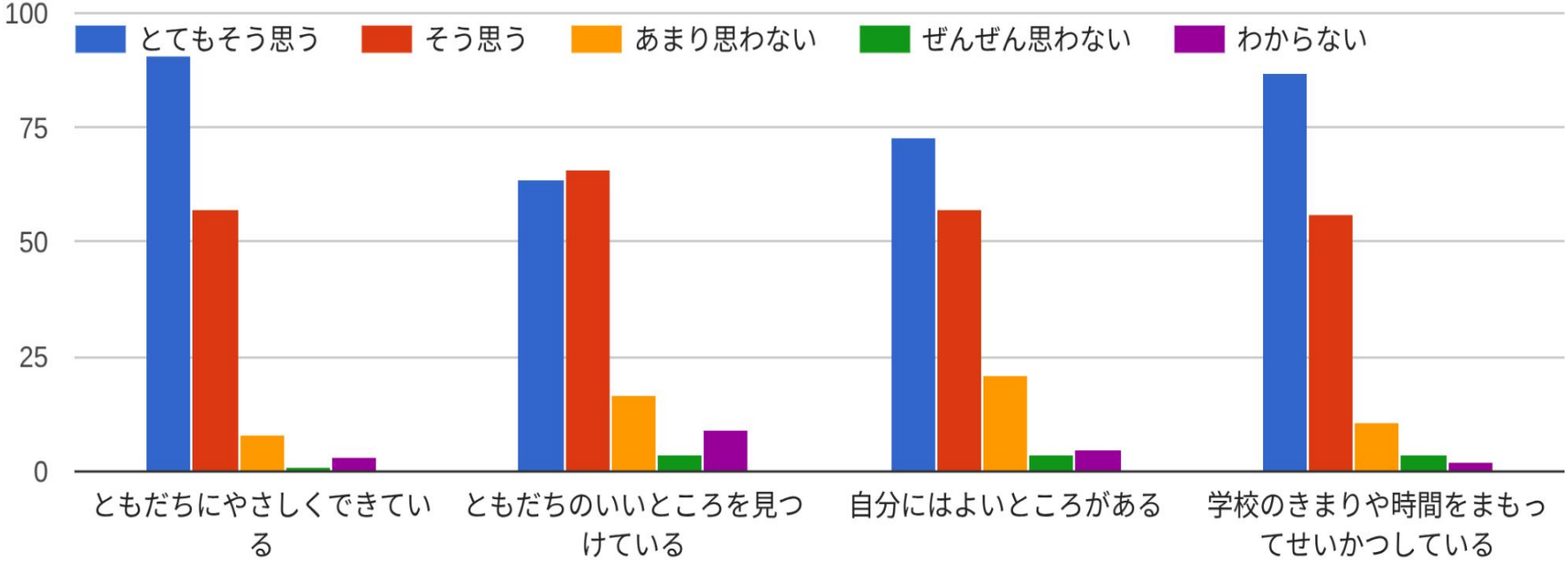
・低学年は読書を好んでいる児童が多い。しかしながら、高学年になると減少している。これは、ゲームや習い事等で他にやることが増えてきていることも原因であると推察するが、読書自体への興味を持ち続けられるよう引き続き学校でも支援していく。各ご家庭でも読書を促すお声がけをお願いしたい。

・授業は分かりやすいという質問に対して、低学年も高学年も「とてもそう思う」と「そう思う」を選んだ児童が大半を占めていた。さらに、低学年では「そう思う」と選択した児童が「とてもそう思う」と選択した児童を上回っていたが、高学年になると「とてもそう思う」を選択した児童が上回った。これは、学年が上がるにつれて自ら学習に取り組む姿勢が身に付いてきたことや校内研究等の取り組みが結果に表れてきているものと考えられる。

2. 児童理解・児童指導の充実

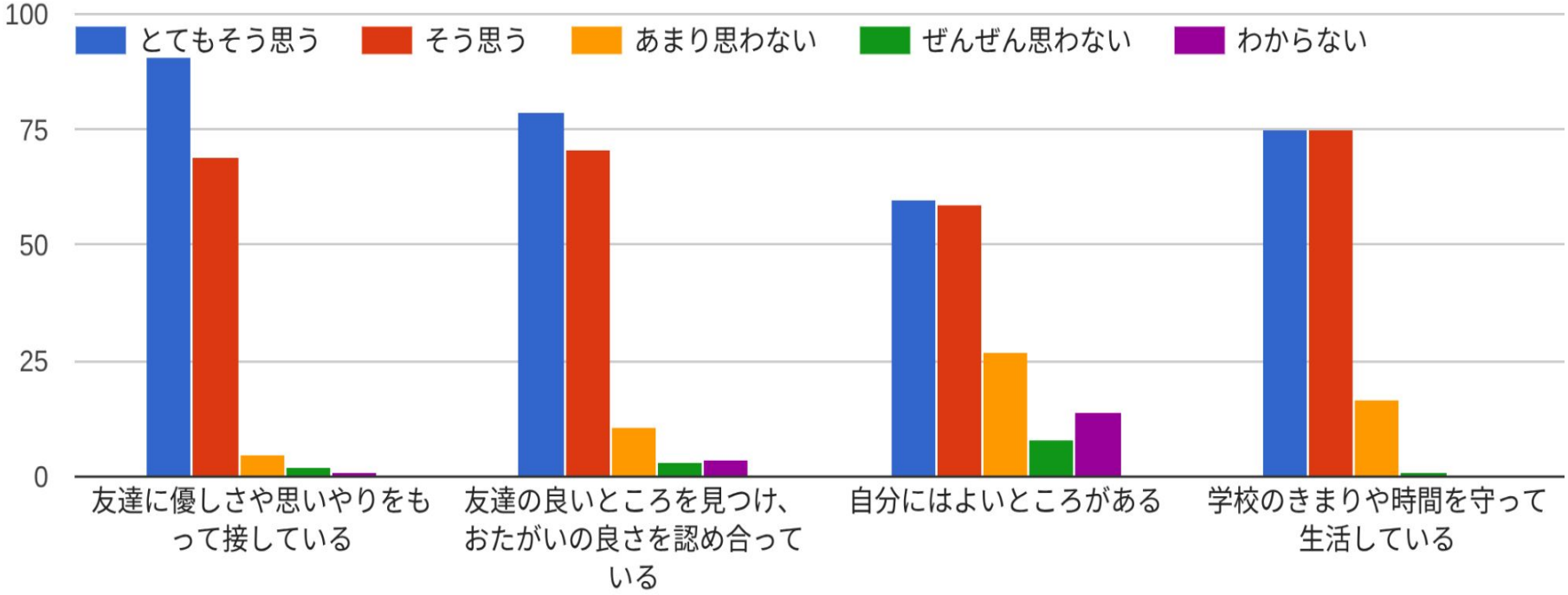
低学年

2　せいかつについて



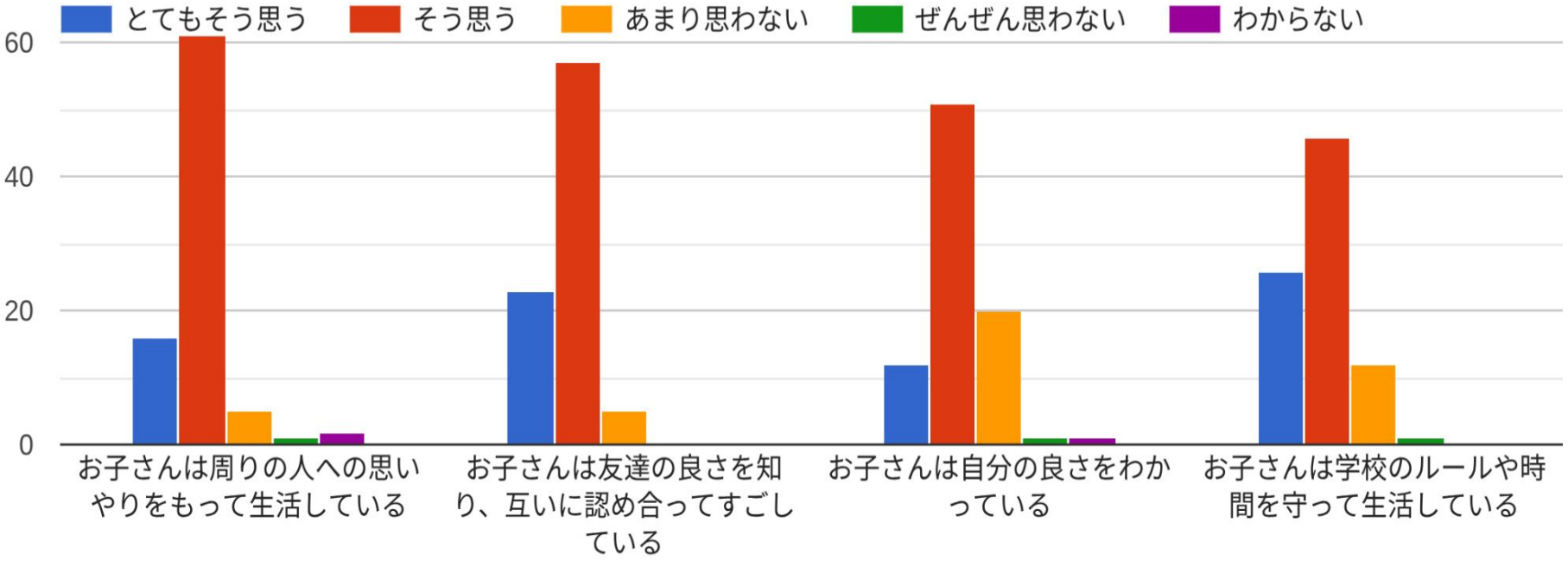
2　生活について

高学年


100
75
50
25
0
とてもそう思う
そう思う
あまり思わない
ぜんぜん思わない
わからない
友達に優しさや思いやりをもって接している
友達の良いところを見つけ、おたがいの良さを認め合っている
自分にはよいところがある
学校のきまりや時間を守って生活している

保護者

2　児童指導の充実



2. 児童指導の充実についての考察

・「友達に優しく接している」「友達の良いところを見つけお互いに良さを認め合っている」の両項目とも肯定的な意見が多い。昨年に比べ高学年でも自信をもってそう言えているようである。子どもたちが思いやりをもち友達と温かい関係性を築こうとしていることがうかがえる。一方、できていないと感じている児童や、わからないと感じている児童も少数いる。取り残すことのないよう、優しい言動を見つけて褒めたり、互いの良さを見つけ認め合えたりする活動を意識してまんべんなく行っていく。

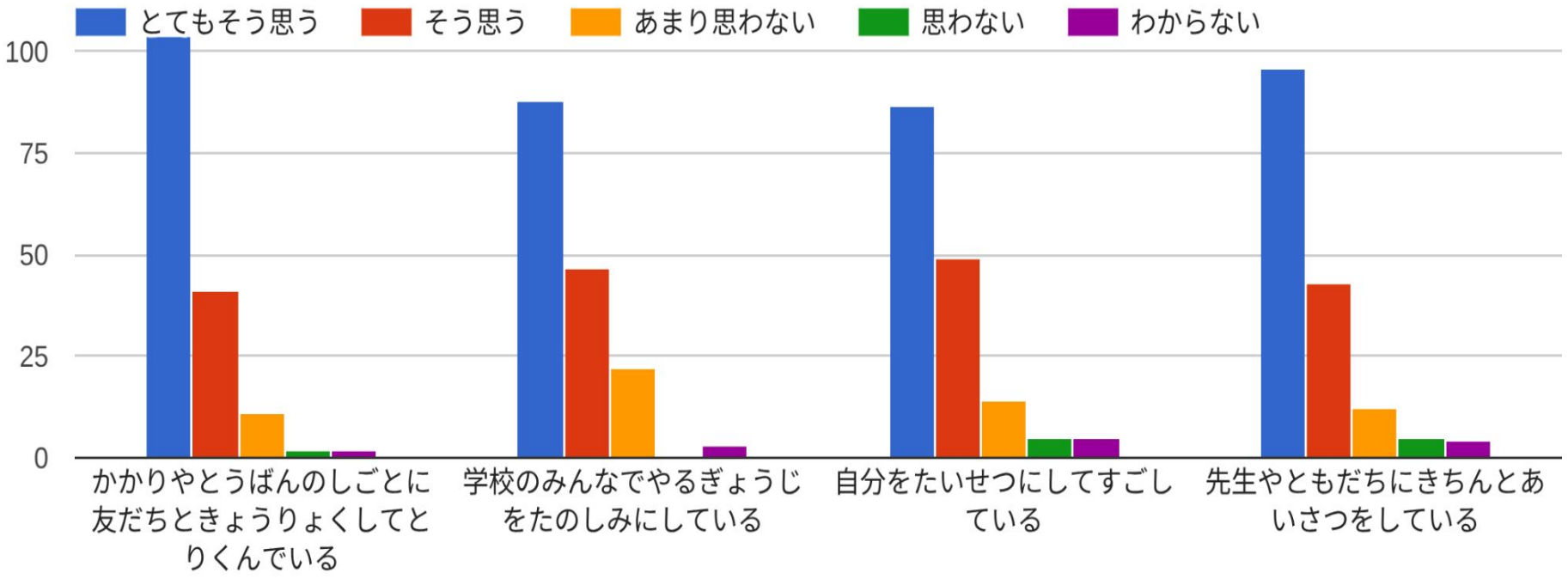
・今年度も「自分に良いところがある」項目は「あまり思わない」「全然思わない」の回答が他に比べ多い。今年は低・高どちらも一定数そう感じている様子がある。自己肯定感の低さは相変わらず課題である。家庭・学校の両輪で大人が知っている子どもたちの良さを子ども本人に積極的に伝えていき、自己肯定感を高められるようにしたい。

・学校のきまりや時間について、子どもたち自身は守れているという意識が高い。しかし、学校生活の中での実態を見るともう少しという部分ではあるので、引き続き粘り強く声掛けをしていく。

３．豊かな心・健やかな体の育成

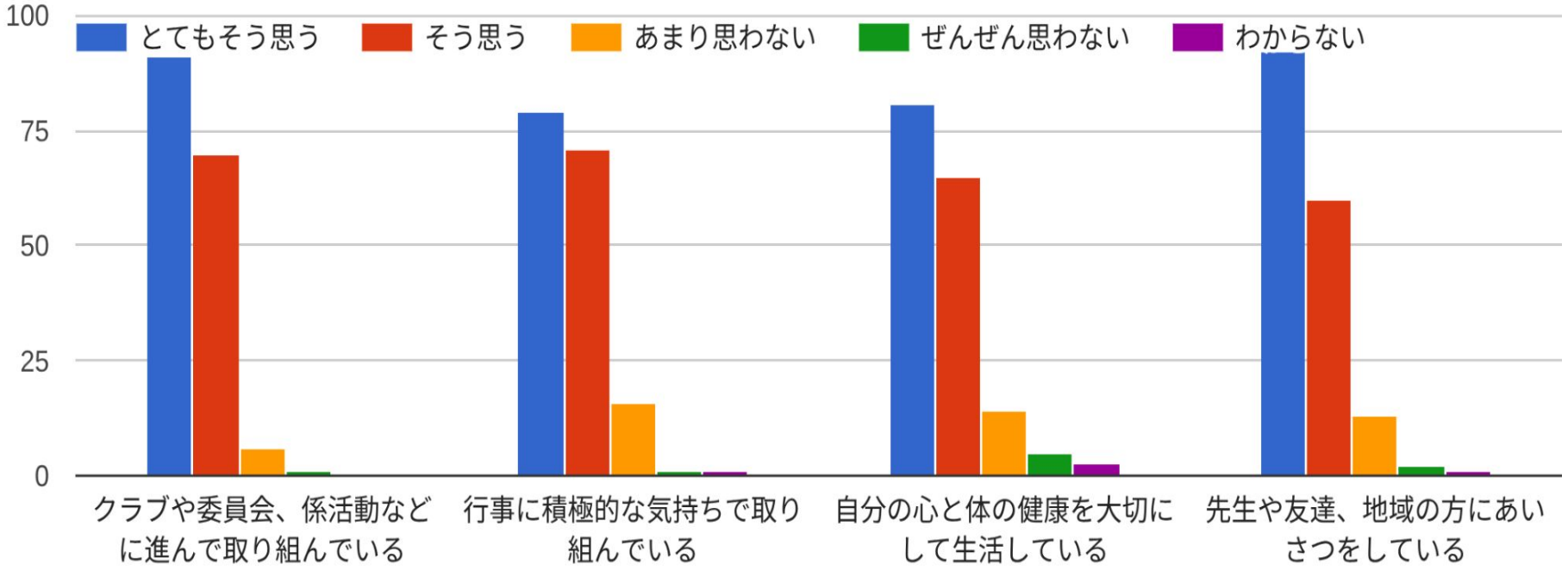
3　いろいろなかつどうについて

低学年



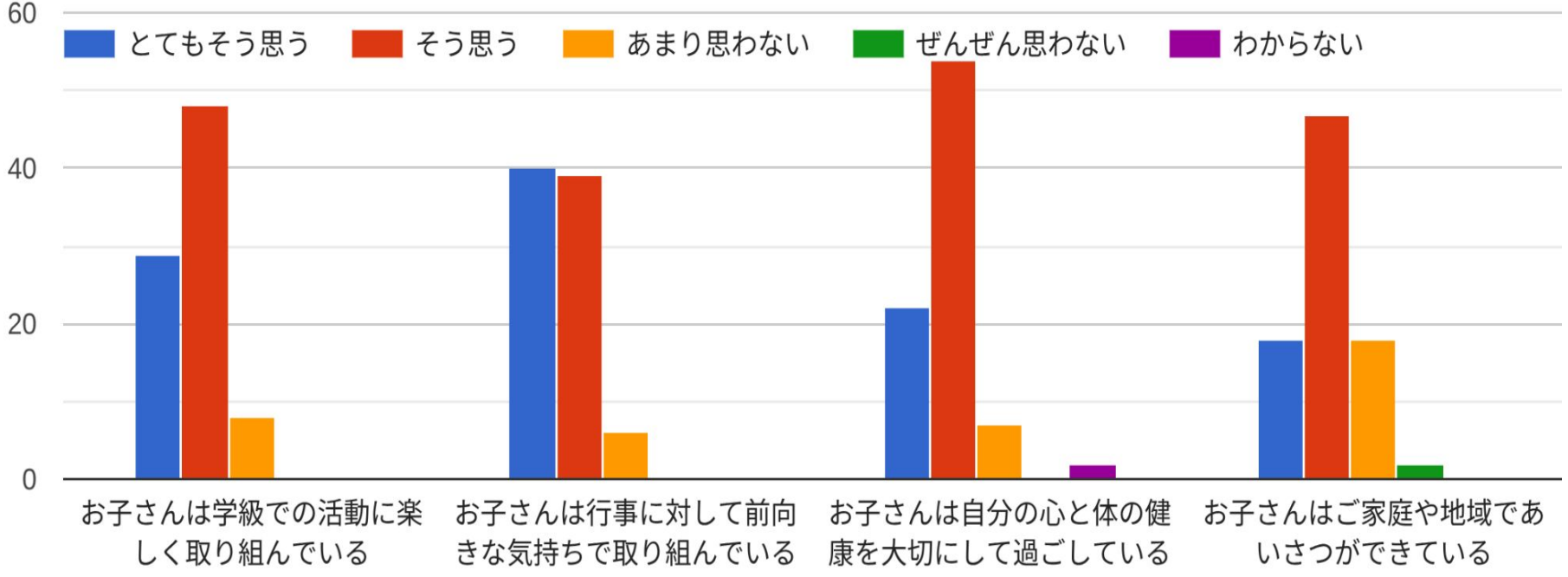
高学年

3　様々な活動について



保護者

3　豊かな心・健やかな体の育成



3. 豊かな心・健やかな体の育成についての考察

・学級内の係や当番、クラブや委員会活動にはおおむね協力的に取り組んでいる。今後も学校や学級のために活動するよ さを担任が具体的に伝えたり、価値付けしたりすることで児童一人一人が所属感や責任感をもって役割に取り組んでい けるようにしていきたい。

・学校行事については、高学年の方が運動会などの行事に前向きな気持ちで取り組んでいる。高学年として行事の運営を 担い、代表委員会などに参加し主体的に行事に参加できるようにしてきた成果だと考えている。しかし、低学年では、 少数ではあるが わからないと答えている児童がみられる。改善案としてさらに企画運営委員会を中心に、低学年に向 けて情報を発信し、学校全体を巻き込んで行事の運営ができるようにしていきたい。

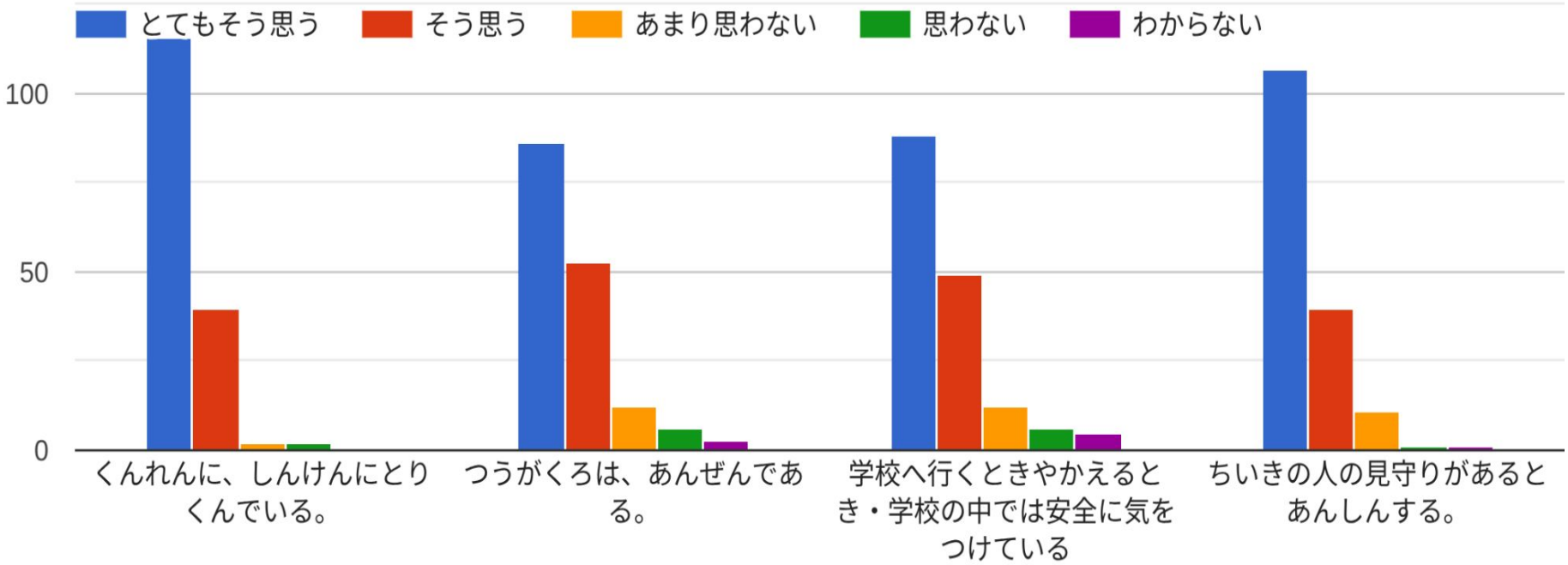
・心や体の健康については、児童は心や体を大切にしながら活動をしている。今後も家庭と協力しながら自分の心と体 を意識し、健康で安全な学校生活が送れるように取り組んでいきたい。また、共生＊共育(SOSの授業)などを通して、 児童一人一人のレジリエンスに対する理解や自己理解の大切さなどを伝え、考えられるようにしていきたい。

・挨拶については、まだ十分にできていないと思っている回答が一定数いる。引き続き朝会や学級指導で挨拶の大切さや よさを繰り返し伝えていきたい。

４．開かれた学校・安全安心な学校

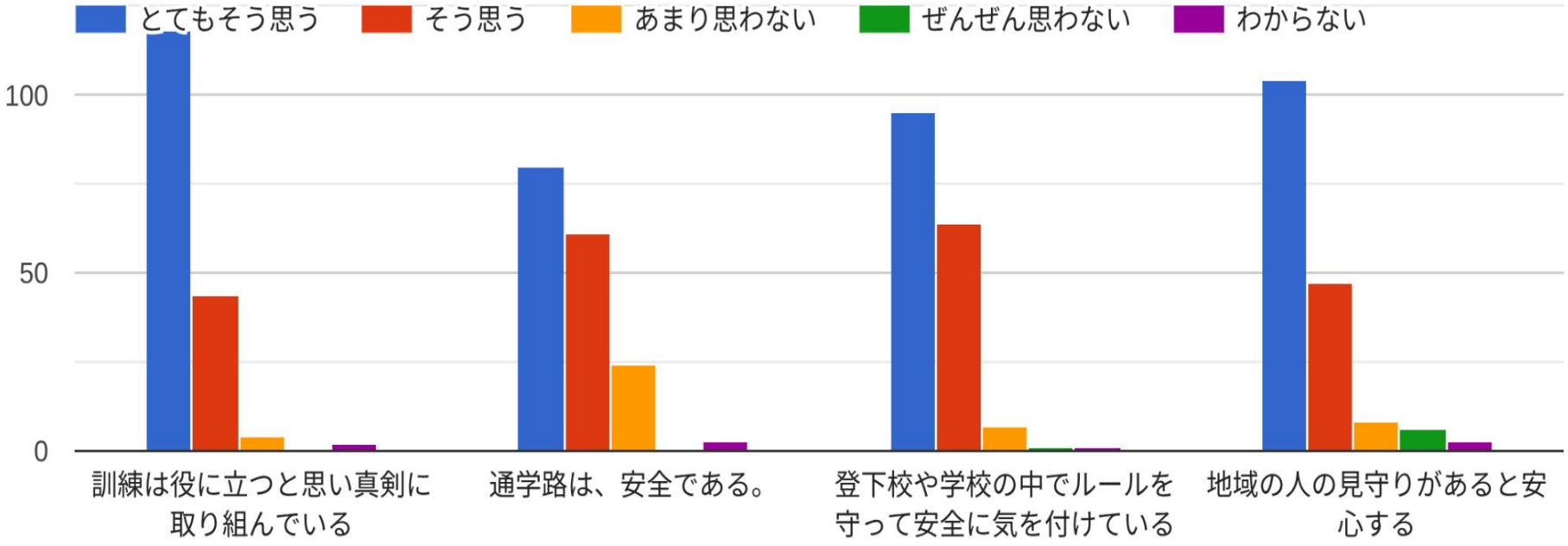
4　ちいき・あんぜん・あんしんについて

低学年



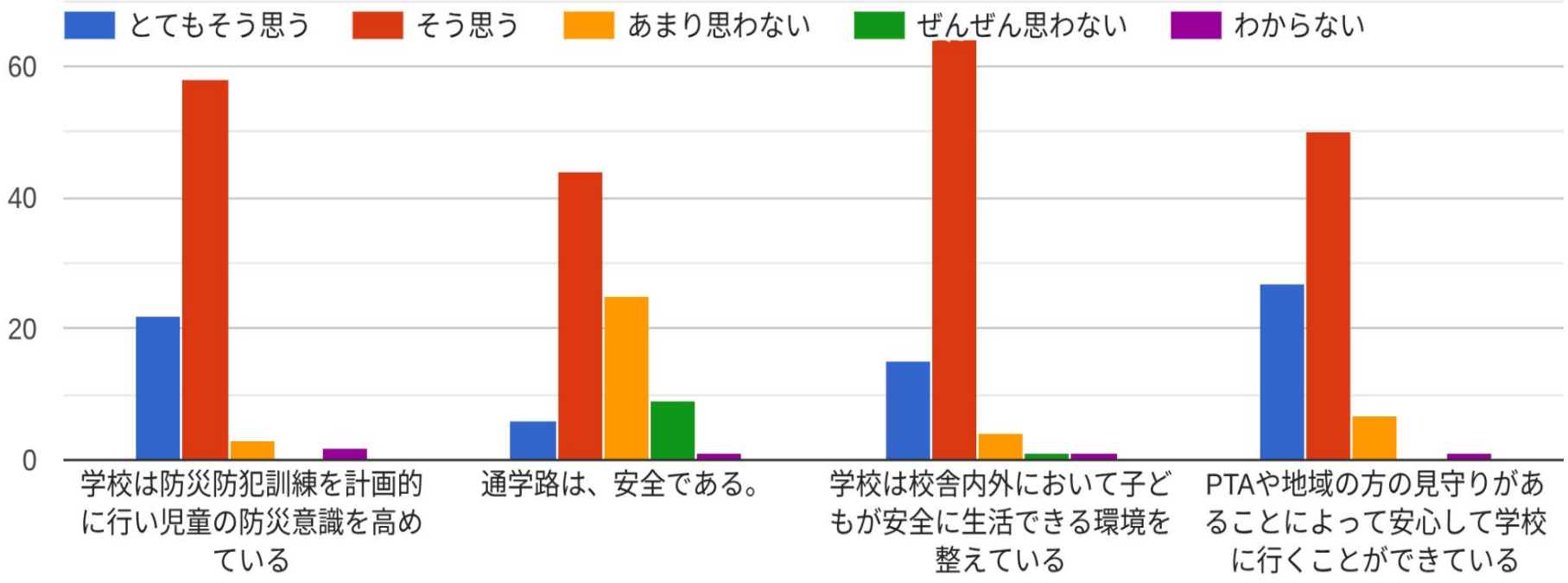
高学年

4　地域・安全・安心について



保護者

4　開かれた学校・安全安心な学校



４．開かれた学校・安全安心な学校についての考察

・「訓練に真剣に取り組んでいる」という項目では、低学年・高学年ともに「とてもそう思う」と回答していた。真剣に取り組んでいると自覚をもって訓練ができているので、今後も継続して訓練を計画していく。

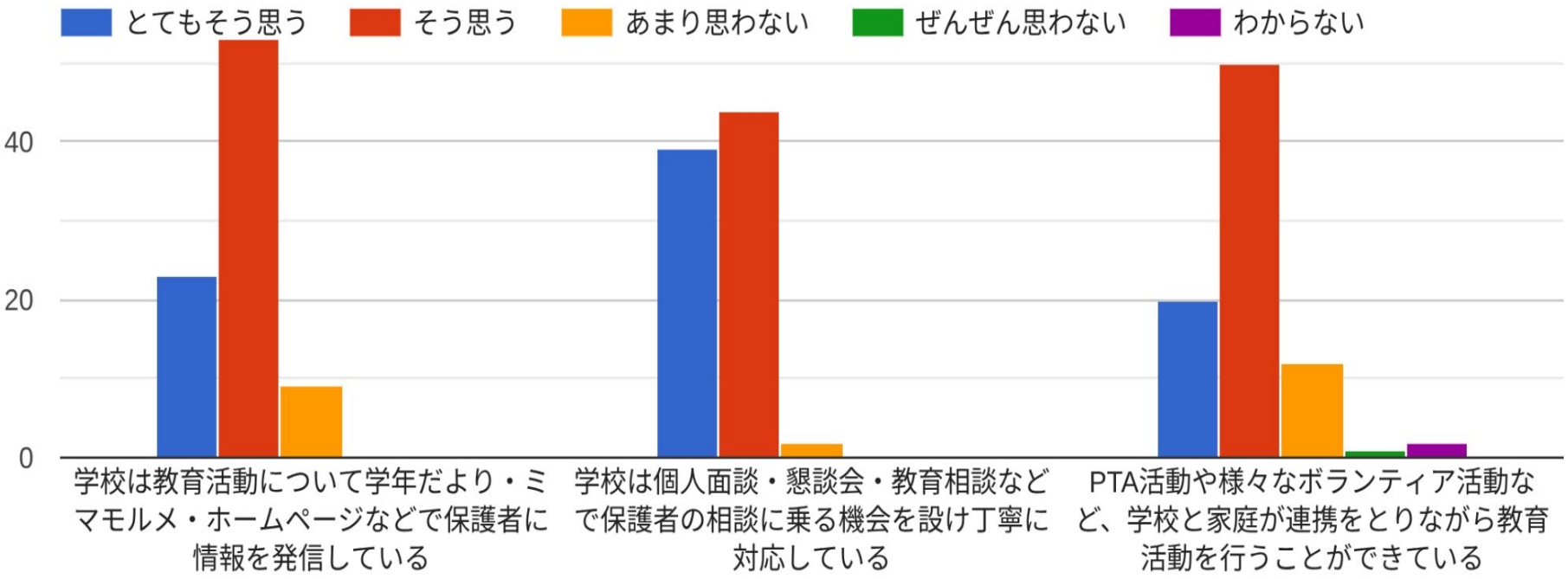
・「通学路は安全である」という項目は、「あまりそう思わない」が年齢とともに増えている。車の行き来が多いと話を受けている道について行政に報告し、スクールゾーンの表記をしていただいた。また、交通指導員さんには次年度も継続してお願いをしている。日頃の見守りの感謝を、保護者の方からも児童からも聞いている。

・「ルールを守って安全に気をつけている」の項目には、「とても思う」「思う」の回答が多かった。その中で登下校に関しては、いくつかの特定の場所について繰り返し指導している。安全に対する意識がさらに高められるよう、学校でも引き続き声をかけていく。

5. 情報発信・学校と家庭の連携

保護者

５．情報発信・学校と家庭の連携



5. 情報発信・学校と家庭の連携についての考察

・「学校からの情報発信」については、8割以上の保護者が肯定的に捉えおり、連絡体制や情報共有が機能していることが伺える。今後も学校ホームページやミマモルメ等を用いて、迅速かつ正確な情報発信を心がけ、学校と保護者の連携を強めていきたい。

・「保護者の相談に乗る機会」については、9割以上が肯定的な回答であった。月１回設けている巡回カウンセラーの教育相談日が定着し、保護者に寄り添った教育相談の場を設けることができたと考えられる。

・「学校と家庭の連携」については、肯定的な回答がある一方で否定的な回答があった。次年度はPTA活動の見直し・改革が予定されている。負担の軽減や参加しやすい形を工夫し、学校と家庭が無理なく協力し合える体制を整え、より良い教育環境づくりにつなげていきたい。

ご覧いただき
ありがとうございました